

- 松浦地域は県北地域屈指の農業地帯であるが、**農業就業人口および耕地面積の減少**が続いていた。
- そのような中でJR九州ファーム(株)(※以下、JR)が長崎県への農業参入を表明し、松浦市が受入意向を表明した結果、H26に松浦への参入が決定した。
- 新規の有力な担い手としてJRの参入・定着を**関係機関およびJRの指導農家(地元篤農家、元指導農業士)と一体となって支援した。**
- その結果、アスパラガス産地(JA部会)の**栽培面積が30%増加し、販売量も全体の約2割を占め(平成29年産)産地の維持発展につながった。**
- また、大規模な雇用型農業の展開により、正社員2名に加え、期間契約社員**20数名の雇用が創出**された。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 アスパラガス産地の拡大

■H27とH28の2カ年にわたり施設整備を行い、新たに3.3haの栽培が開始された

- ①産地の栽培面積 30%アップ
- ②産地の出荷量の約2割を占める

平成25～26年

- 参入スケジュール・**経営計画作成**支援
- 参入地の決定のための住民説明会
- 農地の確保と**農地中間管理機構**の活用
- 県北管内の堆肥の確保支援
- 指導農家**の選定・紹介



平成27～28年

- 経営開始(アスパラガス新植)に向け補助事業(国、県)を活用した**施設整備**を支援
- 作業スケジュールの協議**による計画的な作業の実施を支援
- 指導農家および関係機関が連携し**地元への定着を支援**



平成29年～

- 栽培管理指導による経営安定支援

普及指導員だからできたこと

各専門(担い手、経営、技術)の普及指導員が連携し、チームとなって多角的に支援できる組織力と、地元との信頼関係を築いているからこそ、関係機関と地元が一体となった支援を実施することができ、新規参入企業の定着につなげることができた。

具体的な成果

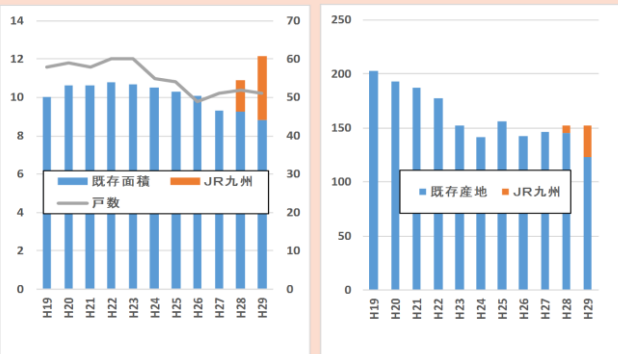


図 松浦地区アスパラガスの栽培面積・戸数の推移

図 松浦地区アスパラガスの販売量の推移

2 雇用の創出

■正社員2名雇用のうち1名は県内出身の農業大学校卒業生である。

さらに期間契約社員20数名の雇用を創出している。



長崎県

新規参入企業支援による松浦地域の農業振興

活動期間：平成25年度～（継続）

1. 取組の背景

松浦市は県北地域において有数の農業地帯であるが、高齢化により農業就業人口は20年間で約半数に減少し、うち68%が65歳以上という構造的な問題を抱えており、次代の担い手の確保が急務であった。また、耕地面積も20年間で27%減少しており、産地維持拡大のための対策が求められていた。

そのような中、JR九州ファーム（株）（以下、JR）が平成24年10月に長崎県への農業参入を表明し、松浦市は受入意向を表明した。その後正式に松浦市での農業参入が平成26年11月に決定した。

JRは大規模な雇用型農業を志しており、新たな担い手として有望であった。産地の維持拡大に加え雇用創出も期待され、地域活性化に大きく貢献することが見込まれることから、本法人への支援を関係機関および地元と一体となって取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

- 1) 経営計画の作成支援
- 2) 参入スケジュールの作成支援（農地確保、灌漑設備工事、施設整備等）
- 3) 新植に向けた環境整備

H27年度に1.65ha、H28年度に1.65haで計3.3haのA P連棟ハウスを国と県の補助事業を活用し施設整備・資材導入を行った。

※活用した補助事業・・・国庫：経営体育成支援事業
産地パワーアップ事業
耕作条件改善事業

県単：構造改善加速化支援事業
輝く園芸産地実現緊急支援事業



図 アスパラガス施設建設前の参入予定地の風景



図 ハウス建設後の風景

- 4) 農地中間管理機構の活用
 耕作者集積協力金、地域集積協力金を活用し、農地の確保を図った。
- 5) 堆肥の確保
 新植前の土作りで大量の堆肥が必要となることから、県北管内の畜産農家の協力のもと、約 1,600t の堆肥を確保した。
- 6) 栽培技術支援
 アスパラガス（3.3ha）の新植に向けた準備の工程を施設整備の進捗管理とあわせ月に 1 回実施した。その後も J R 用の栽培暦を作成し、計画的な労力確保と適期作業がなされるよう支援を行った。
 特に J R の栽培技術の核となる地元の指導農家とは事前に課題の把握と指導方針の目揃えを行った上で指導資料の作成を行い、指導農家の指導内容が具体的にわかりやすく J R に伝わるよう努めた。



図 栽培スケジュール協議の様子



図 現地指導の様子

3. 具体的な成果（詳細）

1) 産地の維持拡大

J R の参入により産地の規模が 3 割増加し、出荷量も 2 割増加し、産地のマーケットに対する競争力の強化が図られた。

（※平成 29 年産実績）

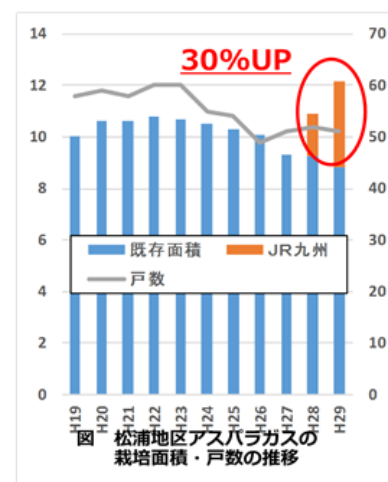
2) 地域雇用の創出

正社員 2 名のうち 1 名は県内出身の農業大学校卒業生を雇用している。

また、期間契約社員として平成 30 年度は 20 数名を雇用している。

3) 地域農業活性化へ寄与

雇用型企业経営体が参入し地域と調和しながら経営成果を上げることにより、意欲的な地域農業者が企業的農業経営へ発展する等の波及効果が期待される。



4. 農家等からの評価・コメント（J R松浦事業所長）

県や市、J Aの支援により、無事に予定どおり経営を開始することができ感謝している。

現地指導や月別作業スケジュール表などの資料が大変参考になっている。今後も継続した支援をお願いしたい。

5. 普及指導員のコメント（所属・役職・氏名を記入）

家族経営でなく農業経験者がいない中で、経営規模は九州最大級であり、先を読んで支援を行うことが難しかったが、普及だけでなく関係機関やJ R指導農家、地元と連携することで一歩ずつ前へ進むことが出来た。

まだ道半ばではあるが、今後も1つ1つ課題をクリアし、目標単収達成に向けた支援を継続していきたい。

（県北振興局北部地域普及課・主任技師・大井友紀子）

6. 現状・今後の展開等

J Rは目標単収3 tと高い目標を設定しているが、平成29年産は2年生株で1.6 tと部会平均並みの収量となっている。

今後も定期的な検討会や現地における栽培管理指導について、J R指導農家、松浦市（農林課、農業委員会）およびJ Aと密接に連携して対応し、目標単収達成に向けた支援を継続して行う。